

未修者教育

【特に優れた取組】

○未修者教育を充実・発展させるための取組【一橋大学】

【優れた取組】

○未修者のための「先導的な教育システムの構築」ーictを用いた入学前導入教育ー【北海道大学】

○時間的ハンディキャップのある有職社会人学生に向けた未修者フォローアップ・プログラム【筑波大学】

○・学部連携5年一貫法曹養成プログラム

～学部連携と大学院進学強化プログラムによる5年一貫法曹養成の実現～

・ICTを活用したテーラーメイド型未修者教育プログラム

～段階的・多重的なテーラーメイド型未修者教育モデルの構築と実践～【名古屋大学】

○法学未修者の学力向上と志願者増に向けた取組【京都大学】

○未修者スタートアッププログラム等の実施とその入学前・進級後への拡大【神戸大学】

○・琉大グローバル・ロースクール構想

・沖縄型「地元を支えられた小規模の特性を生かした法学未修者教育の更なる強化」【琉球大学】

○・法学部教育と連携した法曹養成一貫プログラム

・未修者の飛躍的な実力向上のための取組み【創価大学】

○・法学未修者に対する入学前から修了後までのシームレスな法学教育

・法学部との連携による法曹志望者の増加策

～早期卒業・飛び入学, 先取り履修, 高大連携～【明治大学】

○「未修者教育」システムの改革プログラム【早稲田大学】



◇プログラム名

未修者教育を充実・発展させるための取組

趣旨・ねらい

未修者教育の充実・発展のため、進級試験の導入、法律文書作成能力向上のための科目新設、OB・OGによる学習アドバイザー制度の強化、担任制度の導入などにより、継続的に未修者教育体制の改善を行っている。

取組のポイント

① 進級試験の導入

- ・ 1年次（未修）から2年次に進級するために、憲法・民法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法の5科目につき、学期末試験とは独立した論述式の進級試験合格を要することとした。

(主な実績・成果)

- ・ H25年度試行
- ・ H26年度から正式実施

② 法律文書作成能力向上のための科目新設

- ・ H27年度から、1年次（未修）学生を対象とする「法律文書作成ゼミ」（1単位）を任意科目として新設。

(主な実績・成果)

- ・ H28年度は1年次学生23名中21名が履修
- ・ H29年度は1年次学生17名中15名が履修

③ OB・OGによる学習アドバイザー制度の強化

- ・ 従来からの学習アドバイザー制度（OB・OGの弁護士による指導）に加え、H28年度から司法試験合格直後・修習前のOB・OGの指導による1年次学生対象のゼミを新設。

(主な実績・成果)

- ・ 設置2年目の修了生ゼミについて、20名のOB・OGの協力により、希望者全員（34名）が参加した。

④ PDCAサイクル

- ・ 学生アンケート、FD会議などによって、施策の実効性を検討した上で、継続的に施策の見直しを行っている。



「修了生による新たな少人数ゼミ」

司法試験合格直後・修習前の本学修了生が短期間集中して、少人数で未修1年次の学生に学習方法を指導するゼミを新設(2クラス)。



「修了生によるキャリアアドバイザー」

未修コース出身の修了生弁護士がキャリアアドバイザーに就任して、未修者を主たる対象とした在学中からの進路相談・就職支援を開始。



「未修者全員に担任教員を配置」

すべての未修者に担任教員・副担任教員を各1名配置し、学期毎に面談を実施する等、きめ細かい支援を実施。

(各担任教員は、2名の学生を受け持ち)

北海道大学

◇プログラム名

未修者のための「先導的な教育システムの構築」

- i c tを用いた入学前導入教育 -

取組のポイント

①入学前のICTを用いた導入教育

- ・未修者を対象として、入学前にTKCのシステムを通じて憲法、民法、刑法の導入授業の動画配信を行う。受講生の理解度をチェックし、入学後の指導に活かすため確認テストを実施する。

(主な実績・成果)

- ・入学後のアンケートによると、動画配信及び確認テストは、非常に好評である。さらに今後、動画の改訂を予定している。

②導入教育と連動した入学後の指導

- ・導入教育の結果を受けた入学直後のカウンセリング、学期ごとのチュータリング、1年次末のモニタリング、1年を通じた基礎ゼミによるエンハンスメントという形で丁寧なフォローアップを行う。

(主な実績・成果)

- ・確認テスト及び各学期の成績、チュータリング等の指導の内容を学生ごとにカルテにまとめ、継続的な指導を行っている。

名古屋大学

◇プログラム名

- ・学部連携5年一貫法曹養成プログラム
～学部連携と大学院進学強化プログラムによる5年一貫法曹養成の実現～
- ・ICTを活用したテラーメイド型未修者教育プログラム
～段階的・多重的なテラーメイド型未修者教育モデルの構築と実践～

取組のポイント

①段階的な学習

- ・「基礎知識」の定着と「書く能力」の涵養を図るため、入学前学習、事前学習確認テスト、実定法基礎Ⅰ・Ⅱ、夏季理解度チェック講座・夏季文章力養成講座、総合問題演習という段階的な学習システムを用意。

(主な実績・成果)

- ・平成29年度より導入し、事前学習確認テスト等の結果から、これまでの未修者と比べて高い教育効果が出ている。

②ICTを活用した情報共有と「じゃくてん定期便」の組み合わせ

- ・段階的な学習に「お助け君ノートシステム」、eポートフォリオシステムといったICTを活用した情報共有と「じゃくてん定期便」を組み合わせた多重的なシステムにより、個々の理解度に合わせた未修者教育モデルを構築。

(今後の展望)

- ・複数の教員がICTを活用し、多重的に関与して段階的な学習を見守るとともに、個々の未修者の弱点を把握して繰り返しフィードバックすることにより、司法試験合格率の上昇、それに伴う入学者の増加が予想される。

筑波大学

◇プログラム名

時間的ハンディキャップのある有職社会人学生に向けた
未修者フォローアップ・プログラム

取組のポイント

4つの未修者教育プログラム（①チューターゼミ強化プログラム、②基礎力自己測定プログラム、③法学基礎力充実プログラム、④学生カルテ）を有機的に連携運用。

(主な実績・成果)

- ・平成28年度のチューターゼミ実施時間の増加分には、例年比で明らかかな有意差があり、更なるチューターゼミの活性化に成功。（①）
- ・平成29年度より、各学生の解答結果が教員へフィードバックされる体制を新たに構築。（②）
- ・平成29年度春学期「基礎ゼミⅠ」及び「基礎ゼミⅡ」では、未入学の科目等履修生各5名及び6名が履修する実績を達成。（③）

(今後の展望)

- ・④を拠点として、上記各プログラムを有機的に連携運用し、学生毎の習熟度に配慮したきめ細かい未修者教育の更なる推進を図る。

京都大学

◇プログラム名

法学未修者の学力向上と志願者増に向けた取組

取組のポイント

①法文書作成に係る学習支援・未修者向け進路指導の実施

- ・法文書の作成・指導を行う「法律基礎科目演習」を開講
- ・未修者キャリアサポート・学習サポート懇談会を継続的に開催

(主な実績・成果)

- ・上記「演習」にH29年度1年次生のほぼ全員が履修登録
- ・未修者の期末試験における成績の改善傾向

②法学未修者の志願者増に向けた取組

- ・社会人・他学部出身者を対象とした特別選抜の実施
- ・教育訓練給付制度を活用した未修者の生活支援

(主な実績・成果)

- ・特別選抜合格者数がH29年度15人からH30年度18人に増加
- ・教育訓練給付制度をH29年度は15人が利用（法学未修者）

優れた取組
(2. 未修者教育)



◇プログラム名

未修者スタートアッププログラム等の実施とその入学前・進級後への拡大

取組のポイント

①成績上位未修者の復活と基礎力の強化

- ・学習プログラムとカウンセリングにより、未修者の基礎力が強化され進級状況が改善し、進級後の未修者も成績優秀者として活躍。

(主な実績・成果)

- ・平成28年度修了生において、本プログラムを受講した未修者が全修了者の中の成績上位5名中3名を占めた。
- ・平成29年司法試験においてプログラム受講者3名が合格。

②未修者の入学前・進級後のフォローアップを強化

- ・入学試験合格後、入学までの期間を利用して事前授業を行い、入学前に効率的に必要な自習を行えるよう配慮。
- ・進級後の未修者（実務家・修了生・3年次生・2年次生）を含め、助言・協力を未修者目線で行う「コーチング・コミュニティ」の育成を実施。

(今後の展望)

- ・平成29年度より試行開始。

創価大学

◇プログラム名

- ・法学部教育と連携した法曹養成一貫プログラム
- ・未修者の飛躍的な実力向上のための取組み

取組のポイント

①優秀な法曹を養成するプログラムを開設

- ・平成26年4月より本学法学部に、優秀な法曹を養成するプログラム（GLP）を設置した。本取組は、法学部と本学法科大学院が連携して、法学部から法科大学院に至る、高い実力を涵養する法曹養成を目指す。

(主な実績・成果)

- ・本法科大学院の今年度（9月現在）の志願者は68.6%がGLP生である。また、GLP生が早期卒業をして、本学法科大学院入試を受験し、合格した。

②未修者の飛躍的な実力向上のためのPDCAの確立

- ・①事前研修②授業③自学自習の促進の3点にわたってPDCAサイクルを確立し、学生一人ひとりの適性に合わせた学修上、生活上の助言と指導を行うことを通じて、学生が意欲的・効率的に学修できる体制を整え、未修者の飛躍的な実力向上を図る。

(主な実績・成果)

- ・第3回共通到達度確認試験では未修1年生（受験生）の正答率が未修者全体の平均点を大きく上回り、一定の成果が出ている。



◇プログラム名

- ・琉大グローバル・ロースクール構想
- ・沖縄型「地元を支えられた小規模の特性を生かした法学未修者教育の更なる強化」

取組のポイント

①地元の手厚い支援を活用した少人数教育

- ・沖縄弁護士会その他に類をみない物心両面での支援を活用しつつ、指導教員制度やアカデミック・アドバイザー制度を通じて、顔の見える未修者教育をきめ細やかに提供。

(主な実績・成果)

- ・合格者のほぼ全員が、沖縄弁護士会の支援制度（琉球大学法科大学院支援基金）を有効活用。今年度の未修者合格率は20%（30名中6名）と全国上位の成績。

②法律基本科目を新設するカリキュラム改正

- ・公法や民事法、刑事法の事例問題を検討する科目を新設するカリキュラムの改正に着手。

(今後の展望)

- ・夜間開講科目として既修者や科目等履修生を含む社会人でも受講できるように配慮することを検討。

明治大学

◇プログラム名

- ・法学未修者に対する入学前から修了後までのシームレスな法学教育
- ・法学部との連携による法曹志望者の増加策
～早期卒業・飛び入学、先取り履修、高大連携～

取組のポイント

①法学未修者に対するきめ細かい教育の提供

- ・入学前の導入教育、授業見学、クラス担任制、基礎力確認テスト等を実施し、未修者の司法試験合格率向上を図る。

(主な実績・成果)

- ・未修者コース入学割合：
平成27年度8%、平成28年度12%、平成29年度20%へ増加

②法科大学院進学希望者の増加を図るための5年一貫教育の構築

- ・法学部との間に「法曹教育連絡会」を設置、先取り履修の対象科目を拡大、法科大学院教員による学部1,2年次の教養課程科目を担当、授業料等の給付奨学金制度を導入。

(主な実績・成果)

- ・飛び入学制度6名、早期卒業制度10名の入学実績有



◇プログラム名

「未修者教育」システムの改革プログラム

取組のポイント

① AA(アカデミックアドバイザー)制度を活用した「パートナー制度」

(主な実績・成果)

- ・4名程度の学生にAA1名を張り付け、計画性、方向性をもった法律学の学修をサポート。「授業開始直前集中ゼミ」等を実施。

②法律科目演習(ゼミ)を導入

(主な実績・成果)

- ・H29年度5科目8クラスを開講。

③実務基礎教育システムの構築

(主な実績・成果)

- ・「法学の基礎」開講、「法実務入門」新設。
- ・弁護士法人早稲田大学リーガル・クリニック事務所、早稲田リーガルコモンズ法律事務所と協力する未修者向けの夏季特別プログラム「模擬裁判(刑事)」を正規科目化。(H29年度:履修者18名)